



## ningen gokaku

	製作 企画	加藤博之 土川勉 神野智
	プロデューサー	下田淳行 藤田滋生
Hidetoshi Nishijima	監督・脚本	黒沢清
	撮影	林淳一郎
Shun Sugata Lily Kumiko Asou	照明	豊見山明長
	美術	丸尾知行
	録音	井家真紀夫
	音楽	ケイリー・芦屋
	編集	大永昌弘
Show Aikawa Yoriko Doguchi Ren Ohsugi	スクリーンライター 助監督	小山三樹子 吉村達矢
	製作担当	金宗暁
	制作統括	鎌田賢一
Hiromitsu Suzuki Kosuke Toyohara	制作協力	ツインズ
	製作	大映株式会社 
	配給	松竹株式会社 
Koji Yakusho		©1999 大映



僕はここに存在した。

# ニンゲン合格

第11回東京国際映画祭 コンペティション公式参加作品 黒沢清監督作品

10年眠り続けた一人の青年と家族の風景…

黒沢清監督が描いた心をゆさぶる傑作

ある日、昏睡状態から目覚めたら、家族はバラバラだった…

交通事故により昏睡状態のまま10年間眠り続け、24歳のある日、突然目覚めた主人公・吉井豊（西島秀俊）をめぐって物語は展開する。眠っている間にバラバラになっていた家族との再会。しかし10年という歳月は、様々な状況を変えていた。宗教活動をしている父・真一郎（菅田俊）、離婚して自立している母・幸子（リリィ）、そして恋人の加崎（哀川翔）とその日暮らしの妹・千鶴（麻生久美子）。家族は誰も家に住んではいなかった。中学時代の友達に会ってもどこかぎこちない。吉井家の敷地で釣り堀を営む風変わりな真一郎の友人・藤森（役所広司）が、退院後の豊の面倒をみることになる。そんな状況に戸惑いながらも豊は、かつて家にあったポニー牧場を再健しようとする。それが家族の再生につながり、自分の存在理由であるかのように…。

10年眠り続けた一人の青年と家族の関係

ある日、目が覚めたら自分だけそのまま、まわりの世界が10年過ぎていた。普通ではない人生を生きるようになってしまった豊。そして家族のことを思いながらも、今は自分自身の人生をそれぞれ歩んでいる妹、母、そして父。「ニンゲン合格」は、そんな一人の青年と家族の日常を描きながら、家族の関係と人間の“生”を独自の視点で見つめている。

『CURE』の黒沢清監督が描く新たなる傑作

監督・脚本は、第10回東京国際映画祭（最優秀男優賞受賞）・ロッテルダム国際映画祭正式出品作「CURE」で普通の人々の心の間を描き、国内外の話題をさらった黒沢清。その後も、連作「蛇の道」「蜘蛛の瞳」で独自の映像空間を追求。黒沢監督にとってもエポック・メイキングな作品になるであろう本作は、これまでの作品とは一転して“家族”を題材とし、また吉井豊という一人の青年のどこか寓話的な“生と死”に、普遍的なテーマを込めることに成功している。

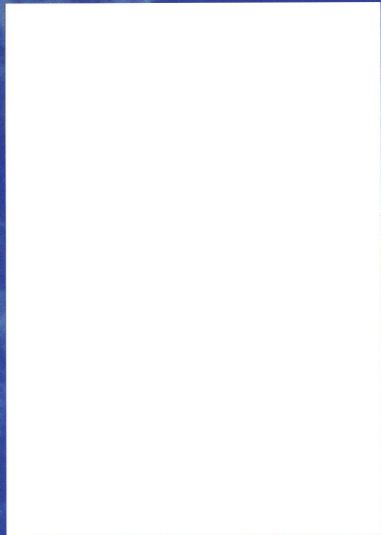
絶妙な演技をみせる魅惑のキャスト

主演は、吉井豊役に「2／デュオ」「アートフル・ドチャース」「冷血の罟」と出演作が相次ぐ注目の若手実力派、西島秀俊。豊の面倒を見る藤森役を「うなぎ」「CURE」「失楽園」で97年度の主演男優賞を独占した役所広司が演じ、再び黒沢作品に挑む。豊の家族には、父・真一郎役に「蜘蛛の瞳」など黒沢作品は4本目となる菅田俊、母・幸子役にシンガーソングライターで『のど自慢』にも出演しているリリィ、妹・千鶴役に「カンゾー先生」のヒロインに抜擢された麻生久美子。さらに千鶴の恋人・加崎役に「蛇の道」「蜘蛛の瞳」など数多くの黒沢作品に主演する哀川翔、そして大杉漣、洞口依子、鈴木ヒロミツら個性派が脳を固める。

1998年／カラー／35mm／ヴィスタサイズ／109分／ステレオ

1月中旬より松竹洋画系ロードショー!

東 劇 渋谷シネパレス 梅田東映パラス2 松竹角座 名古屋グランド 札幌ヒカデリー2  
03(3541)2711 03(3461)3534 06(343)7296 06(211)1131 052(584)7360 011(231)9084



## そして、どこかへ行く・・・

一艘の船にたまたま乗り合わせてしまった人物たち… 映画はたいていそのようなシーンから始まる。そして、信頼と裏切り、愛と憎悪、個と全体、思いつく限りのドラマが周到に用意されるのが常道だ。しかし、私が今回の映画を作るにあたって家族というものを題材に選んだ時、最初から常道であることを放棄せざるをえなかった。なぜなら、家族とは一艘の船では全然なかったからだ。それは絶対的なくせに希薄であり、偶然の産物でありながら濃密であるといった厄介な関係であった。逃れようとすればするほど絡みつき、掴みとろうとするとするりと逃げていく、それが個人と家族の関係である。それを運命と呼んでもいいし、まぼろしと呼んでもいい。

結局私は、無謀にも、他の何にも似ていない映画を撮る羽目になった。

黒沢 清

### 監督プロフィール

#### 黒沢 清 (くろさわ きよし)

1955年兵庫県生まれ。大学時代から8ミリ映画を撮り始め、「しがらみ学園」は1980年度のびあフィルム・フェスティバルに入賞する。その後、長谷川和彦監督、相米慎二監督、高橋伴明監督に師事し、1983年「神田川淫乱戦争」で商業映画デビュー。「ドレミファ娘の血は騒ぐ」「地獄の警備員」等で熱狂的なファンを獲得する。1992年、オリジナル脚本「カリスマ」がサンダンス・インスティテュート・スカラシップを受賞し、映画研修のために渡米。その後、「勝手にしやがれ!!」シリーズ、「復讐 The Revenge」シリーズ等で新たなファン層を開拓。そして1998年のお正月映画として全国公開された「CURE キュア」は第10回東京国際映画祭インターナショナル・コンペティション部門に出品され、最優秀男優賞(役所広司)を受賞。ロッテルダム国際映画祭にも出品され、国内のみならず海外でも絶賛される。続いて監督した連作「蛇の道」「蜘蛛の瞳」も高い評価を得る。日本映画の次代を担う監督として、現在最も注目を集めている映像作家の一人である。

#### ◎ 主な映画作品

- 83年 「神田川淫乱戦争」
- 85年 「ドレミファ娘の血は騒ぐ」
- 89年 「スウィートホーム」『奴らは今夜もやって来た』
- 92年 「地獄の警備員」
- 95年 「勝手にしやがれ!!強奪計画」「勝手にしやがれ!!脱出計画」
- 96年 「勝手にしやがれ!!黄金計画」「勝手にしやがれ!!逆転計画」「DOOR III」「勝手にしやがれ!!成金計画」「勝手にしやがれ!!英雄計画」
- 97年 「復讐一運命の訪問者」「復讐一消えない傷痕一」「CURE」
- 98年 「蛇の道」「蜘蛛の瞳」

### ストーリー

病室のベッドの中で吉井豊は目覚めた。豊は14歳の時に交通事故に遭い、10年のあいだ昏睡状態のまま眠り続けていた。今、豊は24歳になっていた。病院でリハビリを続けてすっかり元気になったが、家族の出迎えはなかった。豊を迎えに来たのは、藤森という風変わりな中年の男だった。

藤森は嫌がる豊を連れて、東京郊外にあるすっかり変わり果てた家に帰ってきた。その家には藤森以外、誰も住んでいなかった。藤森は父親の友人で、数年前から誰も居なくなった吉井家に住み着き、敷地の一角で釣り堀を営むかたわら、廃材処理業をしたりと気ままな日々を送っていた。ようやく24歳になった豊の人生が始まった。10年の歳月は豊にとってはついこの間の事であっても、中学時代の友達や世の中にとってはやはり違っていた。藤森も彼なりにいろいろ面倒を見てくれた。しかし、豊はどこかやりきれなさを感じていた。そんなある日、一頭の馬が敷地に迷い込んでいた。豊は馬の手綱を杭につないで、世話をするようになった。その杭は、かつてここがポニー牧場だった唯一の名残りだった。しばらくすると、今は宗教活動をしている父・真一郎や、アメリカへ行ってた妹の千鶴



#### 西島秀俊 (にしじま ひでとし)

1971年東京都生まれ。94年の「居酒屋うれい」で映画デビュー。95年には「大失恋。」「マークスの山」「蔵」と話題作に続々出演をする。その後96年、「セラフィムの夜」に出演する一方で、活躍の場を舞台にも広げる。97年には「2/デュオ」に主演。諏訪敦彦監督のドキュメンタリータッチな演出方法により、ほとんど即興の演技を披露。その実力を内外に示した。98年は「アートフル・ドチャース」「冷血の罠」に出演。確かな演技力で、今後を最も期待される若手男優の一人である。ある日突然、10年の眠りから目覚めた青年という難しい役柄を、独特の存在感で絶妙に演じている。

#### 菅田 俊 (すがた しゅん)

1955年山梨県生まれ。劇団 状況劇場と東京乾電池を経て、その後CM、TVドラマ、ビデオ作品、映画にと多方面で活躍。独特の迫力ある存在感で数多くの作品に出演する。今や、ハードな役柄からコミカルなものまで幅広い演技をこなすことができる日本映画においてかかせない役者である。黒沢作品には、95年の「勝手にしやがれ!!強奪計画」で初めて出演。その後も97年の「復讐一消えない傷痕一」、98年には「蜘蛛の瞳」と続き、印象的な演技をみせている。4本目となる本作でも、自分の息子とうまくコミュニケーションをとれない器用な父親役を、独自の持ち味を活かして演じている。

#### 麻生久美子 (あそうみこ)

1978年千葉県生まれ。95年、週刊ヤングジャンプ主催の「第6回YJ女子高生制服コレクション」で、読者の圧倒的な支持を得てグランプリを受賞。同年、あいかわ翔第一回監督作品「BAD GUY BEACH一悪人海岸探偵局一」でデビューを飾る。以後、96年「7月7日、晴れ」、TBSドラマ「君と出逢ってから」、CM等に出演。97年は「猫の息子」に出演と、着々とキャリアを積む。そして今村昌平監督の目にとまり「カンゾー先生」のヒロインに抜擢。自由奔放でありながらも、家族のことを思い続けている妹役を伸びやかで印象的に演じている。今後のさらなる飛躍が大いに期待される女優の一人である。

が恋人の加崎を連れて突然帰ってきた。10年ぶりの再会は、お互いどこかごこちなかった。しかし数日後、真一郎と千鶴そして加崎は、それぞれ再び去っていった。どうやら家族は、お互いに連絡も取ってなかったようだ。ある時、歌手志望の不思議な女性に、ふとしたきっかけで出会う。豊は、彼女にほのかな想いを寄せる。

千鶴から離婚した母・幸子の住所を聞いていた豊は、会いに出かけた。そこで、温かく迎え入れてくれた幸子とひとしきり話をした。幸子には一緒に生活している誰かがいるようだった。

豊はこつこつと働き牧場をようやく完成させた。藤森と前の馬の持ち主・久留米、さらにその息子たちまで手伝ってくれた。その夜、豊はぼつんと外に立っている真一郎の姿を見て悲しくなり、藤森の胸元で泣いた。

いつの日か、幸子、千鶴そして加崎が帰ってきた。ただ、真一郎はすべての財産を豊に委ね、宗教活動のためアフリカへ旅立って行った。そして、いつのまにか藤森の姿も見えなかった。それでも、家にはテーブルを囲んで食事をする家族のありふれた風景があった。しかし、昔に戻ったような懐かしい日々はそう長くは続かなかった…。

#### 役所広司 (やくしょ こうじ)

1956年長崎県生まれ。無名塾出身。85年の「タンゴ」で映画初出演。その後、90年の「オーロラの下で」で日本アカデミー賞優秀主演男優賞を受賞する。「KAMIKAZE TAXI」で95年度の毎日映画コンクール男優主演賞を受賞。その飛びぬけた演技力が高く評価される。96年は「Shall we ダンス?」「眠る男」「シャブ極道」で主演し、キネマ旬報日本映画主演男優賞をはじめ96年度の映画賞を総なめにする。97年も「うなぎ」「失楽園」「CURE」(東京国際映画祭 最優秀男優賞受賞)「パウンスkoGALS」の4作品で、アカデミー賞最優秀主演男優賞をはじめ多くの主演男優賞を受賞。98年は「絆」、そして「たどんとちくわ」(市川準監督)で主演をつとめている。今回も、藤森というどこかつかみどころのない役柄を、味わい深い演技でみせている。

#### リリイ

1972年、アルバム「たまねぎ」にてデビュー。74年の「私は泣いています」(シングル)が100万枚を超えるセールスを記録。その後も女性シンガーソングライターの草分け的存在として活躍。その一方で、72年に大島渚監督の「夏の妹」で女優デビューを飾る。79年「処刑遊戯」、85年「バラダイスビュー」、90年「良いおっぱい悪いおっぱい」と出演。97年にはドラマ「青い鳥」でテレビにも進出。本作では、かつての生活に戻れないことをわかっていながらも、元の家に帰って来てしまう母親役を微妙に演じている。また、井筒和幸監督による「のど自慢」にも出演している。

#### 哀川 翔 (あいかわ しょう)

1961年鹿児島県生まれ。“一世風靡セピア”出身。90年のVシネマ「ネオチンピラ鉄砲玉びゅー」が大ヒット。以降、「極楽とんぼ」「とられてたまるか」等ヒットシリーズを生みだし続けている。映画デビューは、88年の「この胸のときめきを」。黒沢清監督との出会いは、95年の「勝手にしやがれ 強奪計画」で第6作まで続く人気シリーズとなる。その後97年の「復讐一運命の訪問者一」で再びコンビを組み、作品同様に高い評価を得る。この年は「鬼火」「うなぎ」「虹をつかむ男 南国奮斗篇」など話題作に続々出演。98年には、黒沢監督の「蜘蛛の瞳」「蛇の道」で主演をつとめる。11本目の黒沢作品となる本作では、加崎という不思議なキャラクターを絶妙に演じている。